



守る伝統・繋ぐ思い「たくましい南っ子の育成」 ～大人から学ぶ・大人と学ぶ・大人も学ぶCS活動を通して～

本校には、相撲場がある。48年前、学校の設立に伴い、足腰の強いたくましい子になってほしいという地域の方の願いで、当時のPTA会長さんが中心となり、地元の山から材木を切り出し、地域の宮大工さんの協力のもと、手作りで作られた相撲場である。そこで、校内相撲大会が48年間続いてきた。その熱い思いを絶やすまいと立ち上がったのが、6年生の総合的な学習の時間での「伝統を引き継ごう」というプロジェクトである。「すもう大会を盛り上げ隊」「未来へつなげプロジェクト」というテーマでの探究的な学習である。令和5年度には、コロナを機にすっかり寂しくなった相撲大会を盛り上げるために、現役力士を呼んで、すもうの楽しさを広げたいという児童発信の活動が実現した。児童は、地域や保護者の方と一緒に土俵の環境整備を行い、当日を迎えた。卒業生やPTAの役員は、出店をして賑わうことで盛り上げた。今年、本校はコミュニティ・スクール10年目を迎える。児童は、地域の熱い思いを継承していくことが伝統を守ることだと実感し、相撲場を囲んで南小学校への愛着や誇りを育んでいる。

(府中市立南小学校・花田 三恵)

- 4月5日 会計監査 (東区)
 - 4月5日 第一回幹事会 (東区)
 - 4月18日 第一回理事会 (東区)
 - 4月22日 県公連理事會 (東区)
 - 4月24日 第一回各委員会 (東区)
 - 4月24日 第二回幹事会 (東区)
 - 5月8日 県公連評議員会 (東区)
 - 5月13日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (東区)
 - 5月15日 第75回県連小総会 (東区)
 - 5月22日 全連小理事會 (東区)
 - 5月23日 全連小総会 (東区)
 - 6月2日 全連小事務担当者連絡協議会 (東区)
 - 6月4日 第三回幹事会 (東区)
 - 6月4日 教育研究全体委員会 (東区)
 - 6月5日 県公連専門委員会合同会議 (東区)
 - 6月11日 県公連理事會・評議員会 (東区)
 - 6月12日 全連小合同部会・合同委員会 (東区)
 - 6月13日 第一回総務会 (東区)
 - 6月13日 第一回県市連絡協議会 (東区)
 - 6月17日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (東区)
 - 6月30日 全連小広報担当者連絡協議会 (東区)
 - 7月2日 第二回理事會 (東区)
- ※会場の略号
(事) 県連小事務局
(東区) 東区民文化センター

事務局日誌

広島県連合小学校長会
事務局長
発行所
広島県連合小学校長会
事務局
東区光町1-11-5
地産ビル1003号
電話(082)263-6381
発行者 山口美穂

守る伝統・繋ぐ思い「たくましい南っ子の育成」	1	委員会報告	3
事務局日誌	1	朝会講話	5
会長あいさつ	2	県教委だより	6
広島県連合小学校長会総会・研究大会	2	随想	6
退会校長紹介・新入会校長紹介	3	あとがき	6

会長あつち



広島県連合小学校長会から

「新たな風を！」

会長 山口美穂

様々な思いを抱えながら迎えた今年度も、早数か月が経ちました。皆様、学校の様子はいかがですか。

さて近年、私たちが直面する課題は、多様化・深刻化しています。学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加、不登校や特別支援教育の対象となる児童等への支援の充実、教員の不足等、課題は山積です。また、現在、中央教育審議会では、子供たち一人一人に合った個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、学習指導要領の改訂等の議論が進められています。さらに、小学校中・高学年からの教科担任制の本格化や、ICTや生成AI等、デジタル学習基盤の効果的な活用、教職員の働き方改革など、教育現場の多様な課題に対応するための取組も進んでいます。

このように、大きく変化する環境や課題への対応は、決して一筋縄ではありません。しかし、こんな時だからこそ、私たち校長が先頭に立ち、子供たちの可能性を最大限に引き出しながら、安全・安心な学校づくりに挑戦していくことが、今まで以上に重要にな

るのではないのでしょうか。そこで、次の三点を皆様と共有し、今年度の取組をより充実させていきたいと思えます。

まず一点目は、「原点に立ち返り、校長会の意義を考える」ということです。県連小は、戦後まもない昭和二十五年に広島県教育の充実と発展を願い設立されました。本会の歴史は長く、今年度で七十六年目を迎えます。令和三年度には、広島市小学校長会との組織上分離という大きな転換期を迎えました。

しかし、本校長会の意義は、これまで同様、県内すべての小学校校長が繋がり、学び合うことを通して、校長としての視野を広げ視座を高めることで、課題解決への方向性を見出し、いくことであり、また、学校の実態や思いを集約し、学校現場の声を県・国に届けることです。原点に立ち返り、今年度も実のある取組を進めていきたいと思います。

二点目は、「連携と共有」です。県内各地の校長同士が積極的に情報交換を行い、成功事例や課題、対応策、さらに県や国の教育政策の動向や新たな

施策などの最新の情報を互いに共有し合うことは、学校経営の質を高め、子供たちの学びをより豊かなものにするために不可欠です。連携と共有の輪を広げることで、地域の枠を越えた教育のネットワークを築いていくことができます。今後も、連携と共有に努めましょう。

三点目は、「校長こそ働き甲斐を見出そう！」です。私たち校長は、日々の多忙な業務の中でこそ、子供たちや教職員の成長に寄り添い、学校の未来を切り開く喜びや誇りを見出すことができます。自らの仕事にやりがいを感じ、前向きな気持ちで取り組む姿勢は、必ず周囲に伝わり、学校全体に活力と温かさをもたらします。困難な時こそ「自分がこの学校の校長でよかった」と思える瞬間を大切にし、日々の小さな成功や感動を積み重ねていきたいと思います。その積み重ねが、私たち自身の成長だけでなく、教職員、そして子供たちの成長と未来への希望に繋がると信じています。

共に、「原点に立ち返ること、連携・共有に努めること、校長こそ働き甲斐を見出すこと」を実践しながら、県連小から「新たな風」を起こしていきましょう。

終わりにりましたが、広島市を含む県内四三五名の校長先生方のさらなる活躍とご健康を心よりお祈りし、挨拶とさせていただきます。

(庄原市立口和小学校)

第76回 広島県連合小学校長会総会・研究大会

とき 令和7年5月15日(木)
ところ 広島県民文化センター

- 1 開会行事
- 2 会議
- 3 研修
講師 「広島県の小学校長に期待すること」
広島県教育委員会
乳幼児教育・生涯学習担当部長(兼)参与 重森 栄 理 様
- 4 講演
講師 「次期学習指導要領の検討の方向性 × 教育DX」
～見通しを持って今の改善を進めたい～
文部科学省初等中等教育局教育課程課長 武藤 久 慶 様
- 5 閉会行事



人事給与委員会

委員長 香川隆太

本委員会では、第一回（四月）の人事給与委員会において、昨年度の検討事項や申し合せ事項等を踏まえ、本年度の役員を選出し、活動方針・活動計画等を決定した。
その主な内容は次のとおりである。

一 活動方針

県連小の活動方針を受け、次のように設定した。

○ 明確な人材育成方針・体制のもと、教職員としての使命感や倫理観、個々の実践的指導力の向上に努める。

○ 教職員の職責に相応する適正な処遇が得られるように努める。

教育改革の趣旨に添った校長を中心にした学校経営が進むよう、とりわけ、本委員会においては、人事・給与面で裁量の幅が広がるよう努力していく。また、市町の教育委員会と校長会との連携を深め、より望ましい学校経営に寄与していく。

二 活動計画の概要

四月

○ 役員選出・活動方針・活動計画等についての決定

六月～八月

○ グーグルフォームを活用した実態

調査の集約・分析・考察及び県教委との懇談会資料作成

十月～十二月

○ 人材育成に係る研修会

○ 次年度実態調査内容の検討

○ 本年度の活動のまとめ及び次年度の課題についての検討

○ 児童の転校についての調査依頼

一月

○ 次年度活動方針・活動計画の作成

（呉市立昭和北小学校）

教育研究委員会

委員長 花田修

本委員会では、研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題「夢や志をもち 他者と協働して 主体的に新たな価値を創り出す子どもを育成する学校経営」に基づき、第一回全体委員会で令和七年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

一 活動方針

研究主題の具現化を図るために、五つの研究領域から十の研究課題を設け、さらに研究の視点を明確にして、各組織団体において積極的に研究実践を行うとともに、研究大会において提案、

討議を通して、校長同士で学び合う。

二 活動計画の概要

十六地区の各組織団体で行われる研究実践の交流の場として、年に三回の全体委員会を行う。特に今年度は、本委員会スローガン「学校経営を担う実践研究者として力量を高めよう」に向かって、お互いの実践を持ち寄り、実践に即した研修を深める。また、研究記録として『もみじ』作成に向け、小委員会の開催を予定している。

本年度の主な研究大会として、第十七回全連小研究協議会福岡大会（十月十六日から十七日）、第七十二回中国地区小学校長会教育研究大会岡山大会（十一月二十一日）、第六十一回広島県連合小学校長会教育研究大会北部大会（八月七日）が開催される。会員の皆様の積極的な参加をお願いしたい。

なお、次年度は、広島県福山市を会場に中国地区小学校長会教育研究大会が開催される予定である。会員は一層の研鑽に努め、県民の負託に応えたい。

（福山市立加茂小学校）

広報委員会

委員長 今朝丸 由香

本委員会では、第一回（四月）広報委員会において、役員を選出を行い、令和七年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

一 活動方針

○ 県連小・各機関の会議・会合の審議決定並びに実施状況について迅速的確に伝達する。

○ 会員の意思や、校長会の活動を収集伝達し、交流を図る。

○ 会員及び校長会に、職務遂行、資質向上、学校経営充実に生かせる情報を提供する。

二 活動計画の概要

① 会報二回

（第一九六号・第一九七号）の発行（校長にはメール配信とする）

会報には、トピックス、あいさつ、退・新任校長紹介、委員会報告、地区校長会報告、学校経営、朝会講話、県教委だより、随想などを掲載する。

（七月・十二月）

② 研究集録「もみじ」（令和七年度版第三十六号）の発行

（三月）

③ 速報の発行・配付

・県連小速報 年五回程度
・全連小速報 年数回程度

④ 全連小「小学校時報」への寄稿
テーマに従い執筆依頼・連絡などをを行う。

（東広島市立高屋西小学校）



「新しい年の スタートに当たって」

会員 高橋 伸治

新しい年、令和七年は、「へび年」に当たります。

「へび」という動物には、いくつかの興味深い特徴があります。例えば、蛇は定期的に脱皮をします。脱皮とは、成長するために、古い皮を脱ぎ捨てて新しい姿になることです。

この「脱皮」のような行動は、私たちにも大切なメッセージを伝えてくれます。私たちも時には新しい自分になるために、今までの考え方や習慣を見直し、変化する必要があります。

三学期は皆さんにとって、まさにその「脱皮」の時期かもしれません。一年間の学びをしっかりと振り返り、次の学年に向けて自分をより良くする準備を始める時期です。

例えば、昨年頑張れなかったことがあったなら、それをこの学期にもう一度挑戦してみるのもいいでしょう。反対に、得意なことがある人は、それを

さらに伸ばすために新しい目標を立ててみてください。古い殻を脱ぎ捨てて、より成長した自分になる努力をしてほしいと思います。

頑張っている横路っ子の姿を楽しみにしています。

三学期も、これまでお話ししてきた三つの「あ」「あいさつ」「ありがとう」、「安全安心」を大切に、笑顔溢れる横路小学校にしていきましょう。

(呉市立横路小学校)

「つながる」ことを大切に みんなで楽しい学校に

理事 福原喜美子

新学期がスタートしました。学校は楽しいですか。新年度は、登校班や縦割り班などが新しくなったり、コミュニティ・スクールが導入され、新しい人と出会う機会も増えたりします。

そこで、児童の皆さんに大切にしたいことをお話しします。それは、「つながる」ということです。「つながる」ということは、色々な人と知り合えることになる、仲良くなる、協力して何かをするということです。

「つながる」ために、一番大切にしたいことは、「挨拶」です。挨拶は、みんなの心の扉を開き、心を繋ぐ魔法の言葉です。「おはようございます」

「こんにちは」「ありがとうございました」など大きな声で伝えることができているか。声をかけてもらおうと、「友達になりたいな」「一緒に遊んだり活動したりしたいな」「来てよかったな」などと思うきっかけになります。挨拶から、最初の「つながり」が生まれます。

もう一つは、「仲間づくり」です。「仲間づくり」というのは仲良しの人と仲良くすることではありません。もし、三人いて、二人仲良く遊んでいたらどうですか。一人のお友達が一人になりますね。四人いて、三人で遊ぶのは、一人仲間に入れません。さみしいですね。仲間がいると毎日が楽しくなります。「一緒に遊ぼうよ」「大丈夫」と声をかけてみてください。声をかけ、一緒に過ごすごことで、少しずつ関係が深まって、つながりができ仲間づくりができてきます。

こうして、みんなで楽しい学校をつくり素敵な一年にしていきましょう。

(三原市立須波小学校)

「かけがえのない命」

会員 小林 伸二

今日は、皆さんに「命の大切さ」についてお話ししたいと思います。

皆さんがこうして毎日、朝起きて、学校に来て、友達と話したり、勉強を

したり、遊んだりできるのは、命があるからです。私たちは、生まれたときからずっと、自分の命とともに生きています。でも、その命がどれだけ大切なものなのか、普段はあまり考えることがないかもしれません。

命というのは、一人一人にたった一つだけしかありません。誰にも代わってもらうことはできませんし、失ってしまったら、もう戻ってくることはありません。だからこそ、自分や人の命も同じように大切に思うことが、とても大事なのです。

命を大切にするというのは、ただ「元気に生きる」というだけではありません。夜はしっかりと寝て、朝ごはんをきちんと食べて、体を大事にすることも命を守ることです。また、交通ルールを守ったり、危ないことに近づかないようにしたりすることも、自分の命を守るために必要なことです。

そしてもうひとつ大切なのは、言葉や行動で人を傷つけないことです。人の心も、命と同じくらい大事です。いじめをしない、嫌なことを言わない、誰かが困っていたら声をかける、そうした優しさや思いやりのある行動は、相手の命や心を大切にすることにつながります。

どんなときも「命はかけがえのないものなんだ」という気持ちを忘れないでください。今日一日も、元気に、そして優しい心を持って過ごしてくださいね。

(廿日市市立津田小学校)

委 員 会 教 育 課 だ によ

不登校等児童への支援の充実に向けて

広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部
個別最適な学び担当 担当課長 蓮 浦 頭 達

昨年十二月、文部科学省から中央教育審議会に対し、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」が諮問され、次期学習指導要領の検討が始まった。その論点として、「多様な子供たちを包摂する、教育課程の柔軟な対応とは」が挙げられ、今年四月の教育課程企画部会においては、不登校児童生徒など、各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい児童生徒を包摂する教育課程上の特例の在り方について議論されている。

県が指定した不登校 S S R 推進校やスクールエスにおいては、漢字や計算のドリル学習や一斉一律の指導だけではなく、個々の児童生徒が自ら学んでみたいという思いで、自己決定して取り組む探究的な活動や社会とつながる活動、表現活動なども取り入れている。

また、県教育委員会は、博物館や民間企業、他の自治体などと協働し、児童生徒がわくわくした気持ちで参加できるように工夫した「オンライン学びプログラム」を配信（県内全小中学校等から参加可・要事前登録）している。

各学校においては、不登校等児童生徒の社会的自立に向け、国の動きを注視しつつ、推進校の事例や様々なコンテツを積極的に活用し、S S R などにおける学びの一層の充実を図っていただきたい。

「県連小の会員で良かった」と全ての校長先生に思ってもらえるように、校長先生方の協力を得ながら取組を進めていきたい。

随 想

学校に関わる全ての人が やりがいを感じるために

副会長 高尾 俊 寛

あ と が き

広島県では、不登校等児童生徒が、安全に、安心して生活したり、学んだりできる場の充実に向け、これまで、S S R (スペシャルサポートルーム) を設置した取組やオンラインでつながる機器の整備による県教育支援センター (スクールエス) の機能強化、市町教育支援センターとの連携体制の構築などを進めてきた。これらにより、安全に、安心して生活できる場としての充実が図られてきている。一方で、S S R や教育支援センターにおいて、児童生徒の学びへの意欲を高めるなど、学びの質を一層充実させていく必要があると考えている。このことは、冒頭で紹介した次期学習指導要領に向けた検討の論点にもつながるものである。

今年度本校に赴任してきた教職員に、本校に対してどんなイメージをもっているかを聞いてみた。全員が「大変な学校」だと答えた。どうしてそう思ったのかを再度聞いてみると、周りの人から「生徒指導や保護者対応が大変な学校だよ」「しんどいけど頑張っ」などと言われたという事だった。

い気持ちはあるが集団になじめない児童、不登校の児童、外国籍の児童、また、様々な理由から離席し教室を飛び出してしまふ児童など、配慮を要する児童が少なくない。また、いじめの報告件数も多い。こういった実態が大変な学校というイメージにつながっているのかもしれない。しかしながら、学校の規模は違っても課題のない学校はないと思っっている。その課題に対して全教職員が一丸となって取り組み、児童の多様性を包摂し、児童の成長を全員で喜び合うことを通して、教職員がやりがいを感じていくのだろう。教職員が「この学校で働いてよかった」と思え

今年度の総会・研究大会は、文部科学省初等中等教育局教育課程課長様による対面の講演をいただき、参加者に力強く響く、説得力のある大会となりました。

私には、校長として学校経営を進めていく中で、校長一人の力だけでは何も変えることができないと思っっている。学校が変わるためには、そこで働く教職員がやりがいを感じ、力を結集していくことが必要である。

本校の実態を見た時、学校に行きた

る学校から、「この学校で働きたい」と思える学校へと深化したとき、児童や保護者も「この学校で学んでよかった」「この学校で学ばせて良かった」と思える学校から、「この学校で学びたい」「この学校で学ばせたい」と思える学校へと変わっていくだろう。そのためにも、校長は主力で児童を守り、教職員を守るといった気概をもって学校経営にあたるのが大切である。

日々、様々な課題に向き合いながらの学校経営は、校長先生方にとつて大変なご心労があることと存じます。このような中で、会報一九六号が発行できましたことは、ひとえに皆様方のおかげと感謝しております。

県連小広報活動が、皆様の学校経営の充実に資するよう引き続き努力して参りたいと思ひます。

一年間、皆様のご協力を宜しくお願

い致します。